

ילקוט נדיחות עם ישראל



編者紹介

ザルチア・ラントマン (Salcia Landmann)

1911年、旧オーストリア帝国の東部に生まれる。スイスのサンガレン市で成長し、哲学、心理学、法学、美術史を学ぶ。のちバーゼル市に移り、実存論、現象論にて博士号を受ける。

主な著書『冒険的な言葉・イーディッシュ』

訳者紹介

和田任弘 (わだ たかひろ)

1930年生まれ。1953年東京大学法学部卒業。極東貿易に入社。1965年東レ株式会社にスカウトされ、欧州事務所長となる。1955年から1974年まで、主として西ドイツを中心にヨーロッパに滞在。

現在は、東レ株式会社企画調査部主幹。

続ユダヤ・ジョーク集

昭和49年6月15日 初版発行

著 者 ザルチア・ラントマン

訳 者 和 田 任 弘

発 行 者 増 田 義 彦

発行所

株式会社 実業之日本社

〒104東京都中央区銀座1-3-9

電話 03(562) 4311 振替東京 326

関西支局

〒530大阪市北区真砂町53書協ビル

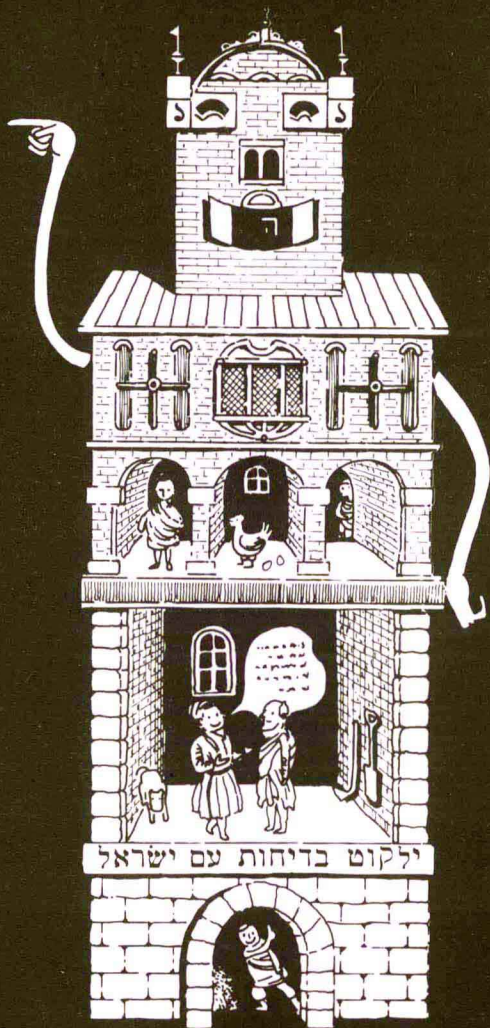
電話 06(363) 1706

印刷・東京研文社 製本・共文堂

ザルチア・ラントマン編／和田任弘・訳

実業之日本社

続
ユダヤジョーク集



Salcia Landmann – “Der jüdische Witz”

© by Walter- Verlag AG Olten, 1960

歌は飢えを癒し、
笑いは傷心を吹き飛ばす

目次

ジョークの英知——序にかえて	13
苦難の果てに	15
人間性に根ざす思想	17
母国を意識したイスラエルのジョーク	19
◆天国と地獄	21
天国Ⅰ	23
天国Ⅱ	23
観光	24
約束の地	25
本意	26
解釈	26
太陽	27
たてまえ	28
忘れる	29
おくび	29
親分	30
神との対話	31
死神の手口	31
うそ	32
一方通行	33
自慢話	33
論より証拠	34

キリストはユダヤ人	神のお思し召し	掟	寄付	臨機応変	救命ボート	信仰	ひとりじめ	神の御心	仕事	収穫	元通り	とりちがえ	二者の相違	水難	宿命	責任	死後の世界
49	48	47	46	45	44	44	43	43	42	41	40	39	38	38	37	36	35

適性検査	見通し	鏡の原理	盗賊	出来すぎ	思いやり	成績	記憶法	若者気質	親父のすね	息子の才能	こらしめ	かくれんぼ	◇むすんで ひらいて	判断	不可能	帽子
64	63	62	62	61	60	60	58	58	57	57	55	55		51	51	50

効能	78	悲喜劇	77	期待	76	当たり前	75	自業自得	74	死守	74	復活	73	敗因	72	皇帝の資格	71	えらさ比べ	71	口泣き笑い人生	69	地軸	68	無学の罪	67	理解度	67	任期	66	若い父親	66	茶飯事	65
----	----	-----	----	----	----	------	----	------	----	----	----	----	----	----	----	-------	----	-------	----	---------	----	----	----	------	----	-----	----	----	----	------	----	-----	----

暇つぶし	89	持続力	89	道理	88	互助	88	楽道家	87	礼儀	86	仮定Ⅱ	86	仮定Ⅰ	85	必要性	84	万が一	83	領土	83	相対性理論	81	不平がいえるとき	81	歴史	80	犬畜生	80	落書き	79	罪	79	野獣	78
------	----	-----	----	----	----	----	----	-----	----	----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	----	----	-------	----	----------	----	----	----	-----	----	-----	----	---	----	----	----

おふくろの数	後悔	女	食欲	ほんとうの罪	ごもつとも	自然の欲求	二段がまえ	みやげ	相克	重労働	♡色は匂えど	樂觀	商魂	需要供給	無名戦士	一人一殺
102	102	101	100	99	99	98	97	96	95	95		92	91	91	90	90

忠告	目的	やぶへび	お目当て	時間ぎれ	人間	螢光燈	シヨック	シエア	経費	浮気	発狂	父親	おれの子	往復	神意	助手	技術の差
115	114	113	112	112	111	110	109	109	108	108	107	107	106	105	104	104	103

うそとまこと	129	合わない計算	128	薄謝	127	警備兵	127	！魚心に水心	125	置きみやげ	124	考えよう	123	屋根の上	122	ほんとうの理由	121	饒舌	121	事実無根	120	先がけ	119	痛みどめ	119	信頼	117	神学的相対性理論	117	而接試験	116	体位	115
--------	-----	--------	-----	----	-----	-----	-----	--------	-----	-------	-----	------	-----	------	-----	---------	-----	----	-----	------	-----	-----	-----	------	-----	----	-----	----------	-----	------	-----	----	-----

生き馬の目を抜く	143	証明	142	こみ	141	逆手	140	商売	139	使い途	139	仲間	138	集金人	137	経験	137	ナイフの買い方	136	借金術	135	経済の奇跡	134	請求せず	133	調達	133	信用	132	主のみぞ知る	131	9と6	130	無実の罪	130
----------	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	----	-----	---------	-----	-----	-----	-------	-----	------	-----	----	-----	----	-----	--------	-----	-----	-----	------	-----

◇金に恨みは数々あれど

釣銭	144	ナッシング	145	特製マツチ	146	即効	147	……この子あり	148	降等	150	三段論法	151	奇跡	151	葬式	155	天引き	155	市の値段	155	馬の代金	156	半額割引	157	願望	158	勲章の価値	158	投機のこと	159
----	-----	-------	-----	-------	-----	----	-----	---------	-----	----	-----	------	-----	----	-----	----	-----	-----	-----	------	-----	------	-----	------	-----	----	-----	-------	-----	-------	-----

喜び合い	160	成長	161	商売熱心	162	タダシキモノ	163	買い方の哲学	163	代替品	164	初仕事	165	かけひき	165	海水風呂	166	不要不急	166	神の保証	167	深謀	167	最新式の機械	168	正直の価値	168	上には上	169	サンプル	170	色がわり	170	呆然	171
------	-----	----	-----	------	-----	--------	-----	--------	-----	-----	-----	-----	-----	------	-----	------	-----	------	-----	------	-----	----	-----	--------	-----	-------	-----	------	-----	------	-----	------	-----	----	-----

もの哀れ	171
自己欺瞞	172
赤十字	173
電報	173
罰金	174
ユダヤ式倫理	175
蛙の子	175
飯の種	176
?!とんちんかん	177
『タルムード』	179
酩酊	180
おたがいさま	181
真実	181
本末転倒	182
移動	182
予想	183
生きている証拠	183

若夫婦	184
安息日	185
場ちがい	186
心配性	186
方向	187
物はためし	188
商売繁盛	188
卵の値段	189
……は死んでも	190
中間報告	191
ふしぎ	191
愚者	191
予備行為	192
記念行事	193
死亡率	194
変わったこと	194
苦勞	195
きっかけ	196

欠点	197
敗者の計算	197
歴史の重み	198
特効薬	199
妙薬	199
集団検診	200
心配	200
保健所の価値	201
相手しだい	201
大衆の声	202
回数	203
阿呆の定義	203
改名	204
名答	205

郵便料金	205
電文	206
キャビア・サンドイッチ	207
ミルク	208
論より証拠	209
見解の相違	210
地球の裏側	211
笑いの種	211
異質	212
不信の念	213
忘れ物	213
価値観	214
効果	215
あとがきにかえて	

ジョーク
の英知



序にかえて





三つのことがらが世界を支えている。一つは正義、
一つは真実、もう一つは平和である。『ミシュナ』

苦難の果てに

ユダヤのジョークは、ヨーロッパ諸国いや世界のどの国のジョークと比べても遜色がない。風刺が鋭く、意味深長であり、ウィットに富んでおり、しかもその種類は極めて豊富である。

周知のように、ユダヤ人は学問の世界でも、芸術の世界でも、政治の世界でも、それぞれ傑出した人物を生んでいる。民族別にみたとき、ノーベル賞受賞者のなかでもっとも多いのはユダヤ民族である。

こうした人たちは、多かれ少なかれ、その成長の過程でジョークのお世話になっている。ジョークというと、いわゆる軽く口をついて出てくる笑い話ととられやすいが、ユダヤ人の場合、それは知的な糧の重要な部分をなしているのである。だから父親はなるべく多くのジョークを記憶し、子どもと話すときそれをフルに活用する。ユダヤの教育は家庭にあるといわれるが、その家庭教育の重要な役割を荷なっているのがジョークなのである。

では、こうした重要な意味をもつジョークが、なぜユダヤ人の間に生まれてきたのだろうか。

まず考えられることの第一は、ユダヤ人たちが、彼ら民族にのみ課せられた苛酷な苦難を